★北東北３県・北海道ソウル事務所 SNS（韓国語）
よろしければフォローお願いします！

Facebook　Instagram　YouTube

北東北三県・北海道ソウル事務所だより（2025 年３月）

報告者：北東北三県・北海道ソウル事務所長　佐藤　雅代

■日韓関係に関する動き（３月）

○日韓関係のこれから　―　帰任に寄せて

本号は、当職が執筆する最後のソウル事務所だよりとなります。コロナ禍の終焉、日韓の往来や交流の活発化、韓国経済の回復と停滞、そして戒厳令騒動からそれ以後の世論の分断と、ダイナミックな韓国社会の動きを間近で見ることができた２年間でした。

大統領の弾劾を巡る左右両勢力のデモは益々活発化しており、報道で見る韓国は、とても混乱した状況であるように見えるかもしれません。しかし、実際には、韓国にいるほとんどの人々が、秩序と治安が保たれた普段どおりの生活を送っています。

左派が政権奪取に成功しようと、右派が大統領を守り抜こうと、韓国には日本のことが嫌いな人と好きな人の両方がいることに変わりはありません。ただ、２年間この国に住んで強く感じることは、どちらの人々にも日本に対する強い関心があって、ソウルの街にはたくさんの日本語が溢れており、個人レベルでは多くの人がとても親切だ、ということです。過去はどうあれ、日韓関係を発展的なものにするためには、日本の多くの人がもっと韓国を知ることが必要だと思いました。これからも、多くの東北・北海道の方に、もっともっと実際にこの国を訪れ、体験していただきたいと思います。

政治がどのような状況であれ、互いのことをもっとよく知り、人の絆を繋ぎつづけることが、時間はかかっても必ず日韓のよりよい未来につながっていくのではないかと思うところです。

■《北海道海外事務所共通テーマ：３月》現地で放送される日本のテレビ番組や映画について

韓国では、歴史的な背景から、1998 年まで日本の大衆文化（テレビ番組、映画、漫画、音楽など）を公共の場で放映したり紹介したりすることが法律で禁じられていました。（ただし、あの手この手でコンテンツを仕入れていた人々がいて、韓国の人々には日本のいわゆる懐メロの話がわりと通じます。）

この法律が改正された 1999 年に韓国の映画館で上映されたのが、多くのロケが小樽市で行われ、故・中山美穂氏が主演した映画「Love Letter」（監督：岩井俊二氏）です。

本作品は、そうした歴史的なタイミングで韓国で封切りされたことと、韓国ではなかなか見ることができない雪景色の映像美も相まって、大ヒットを収め、韓国ではクリスマスシーズンに再放送される定番映画の一つとなっており、映画のクライマックスで主人公が叫ぶ「お元気ですかー？」というセリフは、映画をリアルタイムで見た中年層はもちろん、高校生でも知っている有名な日本語となっています。

2025 年はこの映画の制作 30 周年に当たり、また、昨年 12 月に中山氏が急逝したことも踏まえたのか、昨年末から今年の初めにかけて、韓国大手シネコンの複数館で本作品の９回目の再上映が行われました。今回はかなり若い客層が足を運んでいるとのことであり、作品としての「Love Letter」、そしてその舞台となった小樽市の人気は、今後もまだまだ続きそうです。

■４道県関連トピックス

○北海道エアポートが清州・大田プロモーションを実施

３月７日から 13 日にかけて、北海道内７空港の運営会社である北海道エアポート社が韓国 LCC のエアロ K と協業し、忠清北道の清州空港と大田広域市で、清州空港利用による北海道路線の PR を行いました。このプロモーションの時点でエアロ K は清州-新千歳路線を１日２往復で運行していましたが、その後、５月 21 日からは清州-帯広路線の定期便化（週３便予定）が発表され（帯広空港としては初めての国際定期便）、北海道と韓国の間の往来の増加が期待されているところです。

今回のプロモーションのうち、大田広域市の会場では、デパートにポップアップストアを設置し、北海道産菓子も一緒に PR する試みが行われました。大田広域市は韓国で人口第５位（144 万人）の都市で、公務員や研究職など所得に余裕のある若い世代が多いことから、関心を持って立ち寄る方も多く、用意した菓子はほぼ完売になったとのことでした。（写真左：清州空港の様子　写真右：大田広域市　新世界百貨店アート＆サイエンス食品売り場での PR の様子）

この取り組みに関しては韓国の複数のメディアが取材・放映していますが、そのうち MBC ニュースが清州空港を取材した際の報道を YouTube で見ることができますので（韓国語）、よろしければご覧ください。（URL: https://youtu.be/31HUMvr86X4）